

令和5年度第1回一関市社会教育委員会議 会議録

- 1 会議名 令和5年度第1回一関市社会教育委員会議
- 2 開催日時 令和5年7月25日(火) 午後2時から午後4時まで
- 3 開催場所 一関市博物館 研修室
- 4 出席者
 - (1) 委員 鈴木五郎委員、岩本和美委員、及川正幸委員、栃内宏之委員、菅原宰喜委員、館澤敏子委員、佐々木信明委員、藤森泰子委員、佐藤定悦委員、金野陸夫委員、小野寺美枝子委員、菊地昌斉委員、河野麻希子委員、千葉喜代一委員、村上とも子委員、吉田美和子委員、金森勝利委員、白石理恵委員
 - (2) 事務局 小菅正晴教育長、小野寺愛人まちづくり推進部長、藤倉忠光一関図書館長、佐々木修路一関市博物館次長、氏家克典文化財課長、平石剛教育総務課主幹兼社会教育主事(スポーツ振興課長)伊藤信子いきがづくり課長、佐藤康隆同課市民センター係長、森本瞳同課主任主事、高橋美穂子同課主任

5 説明

- (1) 教育委員会の事務事業等に関する点検評価について(社会教育関係)
- (2) 学校と地域の関わりについて
- (3) 市民センターの指定管理状況について

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者の数 なし

8 小菅正晴教育長挨拶

今年度第1回の社会教育委員会議、新たな方3名を加え、任期2年目になります。

新型コロナウイルス感染症も5類になり、落ち着くかと思っていたら最近また増えてきております。十分気をつけてください。

社会教育委員の役割についてお話しすると、社会教育行政についての様々な意見を皆さんから出していただいて、それを様々な政策に生かしていくという趣旨のもとにこの委員をお願いしているところでありますので、様々な意見を言っていただくことがこの社会教育委員会議にとっては非常に大事になりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

この3月に小学校、中学校の統合が非常に多くあり、10校ほどを統合して新たに二つの学校が新設になりました。大東の中学校と、それから花泉の小学校です。いずれ少子

化の影響が強く、統合についても進めざるを得ない状況であったことを社会教育委員さん方には関係すると思いますので理解いただきたいと思います。

資料の中の市内小学校の児童数の推移（将来推計）ですが、令和元年度には5,254人、令和5年度は4,530人、6年後の令和11年度には3,255人で推移しています。それぞれの地域ごとの多い少ないはあると思いますが、全体的にやはり旧東磐井地域はどうしても減少率が非常に高くなっているという状況であります。

令和5年度1年生の子どもたちが令和11年度には中学校に入ります。これまではどちらかという小学校の統合のことについてずいぶん議論されてきましたが、今後は中学校が議論されざるを得ない状況にあるということで、それだけ人口が非常に減っている状況であります。ただ岩手県内で一関の人口減少率はほぼ真ん中で、この課題は、岩手県全体、そして日本全体の課題というふうに思っています。総理大臣も、異次元の少子化対策という表現を使っておりましたが、まさに異次元の状況で、それにどう対応するか、どうやって地域を維持するか、地域の活力をどうやって維持するかが非常に大事なテーマと思っています。そういう点では、社会教育の果たす役割というのはこれまでも増して、また地域の方々からも求められる機会が大きいと考えております。

本日の会議を博物館で開催した理由として、「大槻三代ファミリーヒストリー」のテーマ展をやっております。大槻三代の様々な資料が、大槻文彦のところに集まっております。文科省の方でしばらく前から調査に入り、この6月に国の重要文化財に指定になりました。四千何点は大槻家の資料であります。これは後で見ていただきますが、広範囲の文書だけではなく、ある意味、江戸時代当時の日本の知識家系の中で東では、最高の家系だったのではないかと思います。そのぐらいすごい方々が一関の先人にいたということについて知っておく必要があると思います。重要文化財ではありませんが、旧東磐井地域にも芦東山という方が様々な形で活動していますけれども、これもまたこの地域の素晴らしさというふうに感じます。そういう点で、本日は皆さん方にぜひ見ていただきたいということでこの場所を選定したところであります。こういう地域の宝を誇りとしていくのも、社会教育が非常に大事な役割であるというふうに私たちは考えるところであります。

本日は事務事業等に係る点検評価、それから学校と地域の関わり方についての部分について説明させていただきます。皆さん方から多くの意見どうぞよろしくお願いいたします。

9 議事

互選の結果、議長に千葉喜代一委員、副議長に藤森泰子委員をそれぞれ選出した。

10 説明

(1) 教育委員会の事務事業等に関する点検評価について（社会教育関係）

資料No.1により事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 評価基準は、前項に示されているAからDまでの評価と事業の方向性ということを示し評価されているが、例えば、Aを評価する細かい決まりはあるのか。

事務局 具体的な指標として目標があれば、一番はっきりA B C Dとつけるところではあるが、全てがはっきりした数字で測れるものではないところもあり、具体的な数字での評価というところではない。担当部署での評価で、客観的には分かりにくいということが、課題にはなっているところではある。

委員 3ページの市民センター事業の今後の取組で、社会教育主事がすべての市民センターを巡回するなど、事業企画等の支援を行っていくとあり、2ページの1の目標値の中の指標項目に、市民センターにおける社会教育主事の資格取得者数が書いてある。現在、非常に良いことで、3人が社会教育主事を取得している。社会教育主事になったあと、社会教育主事への支援をどのように考えているかお聞きしたい。

事務局 表現が分かりにくいかもしれない。3ページの市民センター事業の今後の取組の中で、社会教育主事が全ての市民センターを巡回するものについて、社会教育主事の任命を受けるのは市の教育委員会の職員である。今年であれば、平石社会教育主事が各市民センターを訪問するというような内容である。2ページの市民センターにおける社会教育主事の資格取得者数について、こちらは、社会教育主事講習を受けた社会教育士という名前を名乗れる市民センター職員の育成という部分である。現在3名の市民センター職員の方が、社会教育主事講習を受講して、社会教育士として活躍していただいている。この3名の方については、市の方で市民センター職員の初任者研修会でも講師として、協力をいただいているところである。

議長 社会教育主事の巡回については、訪問してどういうことを視点として持っているかというのを、事前に各市民センターにお知らせしているのか。

事務局 各市民センターに年2回の訪問し、その地域の特性があるので地域の課題に対し指導助言をしたり、相談があればそれに対して返答したり、地域の社会教育事業や地域の特性に沿った助言などを行っている。

議長 事前にその各市民センターから質問事項をいただくことはあるか。

事務局 当日その場でざくばらんに意見交換などを行っている。

委員 12ページの下民俗芸能に関して、市内の小・中学校で保存活動や継承活動を行っている学校はいくつかあるのか。

事務局 小学校で10校、中学校で3校ある。中学校は一関東中、萩荘中、巖美中となっている。

委員 大原獅子踊りというのがあり何とか継承しようと思っているが、いかんせん子どもの数の減少で、高校3年生が抜けると1・2年生の7人だけになってしまう。去年、同窓会に獅子頭などの衣装を新しくしていただいたが、地元の生徒だけだと、厳しいメンバーなので、様々なイベントなどにお声掛けいただいて生徒たちが舞を披露している。今年は、大東中学校にもお願いして中学生にも見てもらう機会を作ろうと努力しているが限界もある。皆さんの地域などで、何かのイベントのときに呼んでいただけるような機会を作って、小さな子どもや、小中学生などにもやってみたいという場をできるだけ増やしていただければありがたいと思っている。今年は、来月の北上の芸能祭にも声を掛けていただいている。学校の中や地域の中で芸能の継承ということでも、お力添えいただけるとありがたいと思っている。

事務局 文化財課の文化財担当、文化財調査研究員に聞いていただければ情報提供などはできるかと思う。

議長 伝承活動については軒並み大変な時期が来ているが、何か地域に残る伝統的な文化財無形文化財についても、何とか市のお力添えをいただきたいという切なる声と思って伺った。

委員 地域学校協働活動事業のところにあるコーディネーターだが、一昨年度に比べて昨年度、コーディネーターが少し増員されたということだが、来年度、市内の全小・中学校で学校運営支援協議会が立ち上がる年度になっている。その中で、各校で委員や、組織体制のことを今盛んに検討している時期だと思うが、学校だけではなかなか選出できないのがコーディネーターだと思う。学校には予算がないので、どうしても頼らざるを得ないところがある中で、もう少し具体的な見通しを示していただくことが、来年度以降、多くの学校で学校運営支援協議会が立ち上がったときの参考になることが一つ。コーディネーターを担っていただける方を探すのが難しいと聞いているので比較的早くコーディネーター配置が可能になるような、手続きなどを示していただければ確保しやすくなるかと思うので、ぜひお願いしたい。

議長 学校運営支援協議会を試験的に行っていると聞いているが、成果についてまとめて発表できるような機会はあるのか。

事務局 発表する機会というのは、全体として特に予定はしてない。

事務局 今のご意見についてだが、各小中学校の方でこれから学校運営支援協議会を

立ち上げるというところも多いかと思う。子どもが今説明した学校支援活動事業だが、学校運営支援協議会とイコールというより、学校運営支援協議会があって、その中に出てきた課題を地域の方で何かできないかというあたりをコーディネートする学校支援活動事業になる。地域と学校の活動を地域のボランティアが手助けすること、その部分のコーディネーターなので学校運営支援協議会自体のコーディネーターではない。ただ実際やる場合に、地域と学校のつながりを支援する活動の中では、重要なコーディネーターであると考えているので、いずれ各小中学校に配置できるよう努めていく。令和6年度に、全小・中学校が学校運営支援協議会を立ち上げるというところには間に合わないが、コーディネーター自体は、説明したとおり、学校運営支援協議会のコーディネーターではなくて、地域課題に取り組む活動の手段の一つとしての学校支援コーディネーターなので、そこを切り離して考えただければと思う。

委員 考えはわかった。ただ、地域との協働活動を考えれば、切り離せない部分もあるとご理解いただきたい。状況についてはわかっているつもりなので、今後の見通しということで各校に示していただきたいと思う。

議長 なかなかイメージ感が難しい部分もあると思うが、先進校での成果を、これから始めるという学校や、地域の方々に示す機会があれば、もっと学校も肩の荷が降りるような気がする。その辺りのご支援、検討していただければと思う。

教育長 今年度は9校で8つの学校運営支援協議会、全部で35校のうち9校が移行している。来年度は、全部の学校が学校運営支援協議会に移行することで進んでいる。先日も、既に実践している9校が集まって、新たな情報共有をした。12月には全校長が集まって既に実践している学校を参考に、計画を練ってもらうこととしている。地域に対しては協議会ができたときに情報提供をペーパー等でしていくことで、徐々に理解を図っていくことになると考えている。今までも学校評議委員ということで、5人が学校に来て様々な意見をいただいているが、それをもっと多くの地域の方々、そして地域で中心になって活動している方々にも入ってもらい、一体にしてやっていこうという動きである。ただ、あまり頑張っ過ぎてやりすぎると続かなくなったり、学校の先生方にかなりの負担がかかるということが出てくる。そこは上手にお互いを見ながら、有意義になるように持っていきたいと思っている。

(2) 学校と地域の関わりについて

資料No.2により事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 中学校だが、行事の写真撮影だったり、花壇の整備であったり様々な面で協

力していただいております。すごく助かっている。

委員 学校によって、地域の方に、ぜひお手伝い願いたいことはたくさんあるだろうし、それは本当に学校にとってのメリットだけではなくて、子どもにとってもいいことであり、それがゆくゆくは地域のためにもなればという考えもある。例えば、本校は人数が少ないので、環境整備の部分になかなか手が回らない。今年度、呼びかけをしてみようかと考えてはいるが、学校からの呼びかけでどれだけ集まってもらえるかという心配はあるが、まず呼びかけて来ていただけたならば、ぜひ我々とともに子ども達にそういう姿を見せることが、将来にとって良いのではというふうに感じている。

委員 茶道の方で、清明支援と中学校、小学校の方に行っているが、それらはこの活動に出てこないのだから私たちはどういう立場なのかと思った。

教育長 これは、コーディネーターを介して、ボランティア活動をしている方々のアンケートだが、直接学校から要望されてボランティア活動している方もいるかと思う。例えば、弥栄小学校でも先ほど羨ましいと言っていたが、それこそ地域と様々な場所で実は実践している。養蚕の体験などはまさにそうである。だからそういうのは結構様々なところで行われているのだと思う。

委員 私は昨年、地域協働体の職員を経験したので地域の角度からそういうのをお手伝いする機会がたまたまあった。これから子ども達の数も先ほど示されたようにすごく少なくなる中、一関市内でも特色ではないが、多分そういうのが活発になってきた方が、離れた地域から子ども達の数が多いところに引っ越ししたり、そちらの学校に行かせたいと思っている親が多いように、逆のパターンとして、中学校がそれぞれホームページなどで、この地域の特色をもっとうまくアピールできれば、そこの地域の学校に通わせたいと思う保護者たちが、そこに移住してきたり、おじいちゃんおばあちゃんのところに戻ろうかと思ったりして、その学校に子ども達を通わせることで、その地域の郷土愛のある子ども達や、心身ともに元気で活発な子ども達に育てたいという人たちには、いいアピールの材料になると個人的には思う。この地域では、先ほどの獅子踊り、大原でも何人も入っているが、その子たちの活動も学校にも下ろしたりして、小学校の頃から関われる。水かけの手踊りなど体験できる。そういうことを発信していけば、子ども達が少なくても大変だと思うが、少ないなりにこういう活動がたくさんできるというところをアピールするチャンスでもあると思った。

委員 人と人との繋がりなどが、社会の進歩と共に薄れてきているので、コーディネーターの形でもいいし、学校側の先生方の形でもいいが、地域にあるその教

育力をいっぱい使って、おじいちゃんおばあちゃんの昔のことから学ぶこともいっぱいあると思う。様々な場面で子どもの側からの繋がりを持つ力を育てないと、これから人口が減っていく中で、人と繋がりを持たない子ども達が増えていく。長く生きてきてみると、学校から地域行事が少なくなったり核家族になったりして、様々な世代から学ぶことが子ども達から少なくなっている。何とかして、コーディネーターという形もあるだろうし、様々な方たちで作っていかなくてはならない。急がなければならない時代だと思う。子ども達の数の推移を考えると。そんな時代になったのだと思った。

議 長 ボランティアに対する学校側のニーズと、ボランティアに参加してくださる方々の、こんなことができたらいという希望など、ニーズみたいなものがあると思う。あとは、やはり子ども達がそこに主役としてなければならないので、子ども達の願いなど、こういうふうにできたらいみたいなそういったものを加味しながらの学校のニーズでやってほしい。一方的にこれを行っているなどではなく、つまり下請けにならないようお願いしておきたいと思う。

教育長 少子化の話を先にしたが、これからの方向について、すごくいい意見がたくさん出たと私は思った。先日の学校運営支援協議会の中で話したことを話すと、例えば、ボランティアで学校に来ていただく場合、学校ではいわゆる援助を受ける、受援力というそうだが、援助を受けるノウハウと経験がまだ十分ではない感じがした。学校は自分たちのことですごく忙しいのはその通りなので、来て実際活動するとすごく役立つが、来るまでの手続きをどうするか、組織をどうするかが大変である。簡単に言えば、それは多分時間とともに学校がどんどんやっていくと思う。ここは私の希望、すごく楽観視している部分である。子どもが地域のボランティア活動に参加する場合、先生が統導するのが難しくなっている中、ボランティアをやらないかという呼びかけに対して、子ども達が自主的に参加を希望し先生が統導せずに、場合によっては保護者が連れて行き、そこで待ち受けているコーディネーターや地域の方々が、子ども達を組織するという例もある。今の子ども達はちゃんと過ごしているので、そういう時代になってきている。なので、ボランティアの学校へのボランティア、子ども達のボランティアなど、地域の活動なども今までの時代とはまた違うプラスの面が出てくるのではないか。そこは期待したいと思う。

(3) 市民センターの指定管理状況について

資料No.3により事務局から説明を行った。質疑なし。

11 その他

事務局から全体に対して意見を求めた。以下、質疑応答等。

委員 先ほど評価指標の仕方について質問したが、なぜ質問したかという点、地域での文化継承という点、市の方でも無形文化財等の指定などを受けており、私の地域の猿沢でも受けていて継続していくのになかなか厳しい状況である。そういったところにも直面しており、無形文化財の指定を受けたところではあるが課題なども出てきている。そういったところを受けるにあたって、評価や指導をしていく上での課題の部分が指定を受ける前に見えてくると思う。そういった指標の根本的な中身を今後煮詰めていただき、時間もかかるかもしれないが、将来に向けていい評価ができ次へ進むかと思うので、その辺の評価指標の仕方については、今後吟味していただきたい。

事務局 指標については、こちらでも課題としては捉えているが一概には難しいところである。だが、検討させていただく。

委員 次回で構わないので、市の教育委員会として、今、生成AIのことが非常に話題になっていて良いところ悪いところ、それぞれ論議されているようだが、市教育委員会としてはどのような考えで、もし学校にこういうふうに通じているなどがあればお願いしたいと思う。また、部活の地域移行の方向性についてどの程度進んだか、次回伺いたいと思う。

12 会議終了後、重要文化財指定記念特別展「大槻三代ファミリーヒストリー」の見学をした。

13 担当課 まちづくり推進部いきがづくり課